

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32618

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13142

研究課題名（和文）チェコ女性作家B・M・エリアーショヴァーと日本旅行記・ジャポニズム文学の研究

研究課題名（英文）Research on Czech Female Traveler B. M. Eliasova and Japonism in Modern Czech Literature

研究代表者

BRUNA LUKAS (BRUNA, Lukas)

実践女子大学・文学部・准教授

研究者番号：10780827

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は大正初期から昭和初期にかけて4度も来日し、日本とチェコの文化交流に大きく貢献した女性旅行家で作家のB・M・エリアーショヴァーを中心に、中欧のジャポニズム文学を研究対象とした。未発表資料・自筆原稿などを調査し、エリアーショヴァーの日本での動向や日本の文化人との交流、帰国後の多彩な執筆活動などに着目し、エリアーショヴァーの多大な功績を明らかにした。また、近代の旅行記や日本を舞台にした小説などにおける「日本」の表象と、これらのジャポニズム文学における女性の語りの意味も追究した。研究論文や学会発表、展示など、本研究テーマ関連の成果を多数公開し、本研究の意義を幅広く発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、チェコの旅行家B・M・エリアーショヴァーの多方面の活躍に光を当てた。数多くの新しい資料を紹介しながら、20世紀初頭の女性解放運動への関与と日本女子大の教員らによる影響のもとで形成された独特な日本観、日本とチェコの新聞雑誌に寄稿された記事にみる女性へのまなざし、帰国後に刊行された旅行記や日本ものの小説に描出される日本像など、従来注目されなかった多数の課題に取り組んだ。これらの諸問題に関する研究成果を公開し、シンポジウムなど議論や意見交換の場を設けることにより、エリアーショヴァーの人物像を大きく訂正し、西洋文学とジャポニズムをめぐる今後の研究に新しい方向性を示した。

研究成果の概要（英文）：This research has focused on "japonism literature" in late 19th century and early 20th century Central Europe, particularly on the figure of B. M. Eliasova, a female traveler and writer who visited Japan four times between the early Taisho and early Showa period, significantly contributing to the cultural exchange between Japan and the Czech. By examining previously unpublished materials and manuscripts, I have delved into Eliasova's life during her stays in Japan, her interactions with Japanese intellectuals, and her literary work upon returning home, thereby clarifying her immense achievements. Additionally, I have analyzed the representation of "Japan" in modern travelogues and novels set in Japan, and the significance of female narratives in this type of literature. Throughout the research period, I have published research papers, delivered numerous conference presentations, and organized several exhibitions related to this topic, thus widely communicating its significance.

研究分野：文学研究

キーワード：ジャポニズム B・M・エリアーショヴァー 中欧文学 旅行文学 日本近代文学 網野菊

### 1. 研究開始当初の背景

近代日本を訪れた外国の旅行家たちがどのように日本を見たのか。実体験を踏まえながら彼らはどのような日本像を構想し、出身国で広めたのか。情報不足を想像力で補いながら構築された近代の日本像は今もなお研究者の関心を引き寄せ、メディア空間や文学実践、各種の芸術領域における日本表象の研究が進められている。しかし、このような研究は決して各時代と各地域を均等に対象にしているわけではなく、西欧・北米に注目が集まる傾向を認めない。中欧のチェコ(チェコスロヴァキア)の文学を対象にした研究も皆無に等しい。

また、女性の旅行とその執筆活動も十分に研究されているとは言い難い。女性の社会進出の可能性が限定されていた近代において、日本を訪れた西洋の旅行家たちのうちに、男性が必然的に大半を占めているが、女性も、様々な障害を克服しながら世界を旅行し、日本も訪れている。彼女たちの日本への視線、彼女たちの日本観や母国の読者に伝達した日本像は、男性旅行家とどのように異なるのか、女性旅行家・旅行作家のまなざしとかたりの特色を見極めることも重要度の高い課題である。

### 2. 研究の目的

上記のような問題意識をもって本研究においては、1910～1920年代に4度も来日し、日本の文化人と盛んに交流したチェコの女性旅行家、作家、翻訳家でもあるB・M・エリアーショヴァーの活躍を研究対象とした。従来、「女性旅行家」や「日本文化の紹介者」としてのみ認識されてきたエリアーショヴァーは、決してそれにとどまらず、徳富蘆花の名作『不如帰』や日本の童話を翻訳し、ジャポニズム小説を複数執筆するなど、多岐にわたる活躍を見せていた。日本に短期滞在し、滞在中に日本全国を旅行した、すなわち移動が多かった他の中欧の旅行家たちと異なり、合計で3年以上も日本に滞在し、東京で語学の講師やチェコスロヴァキア公使館の事務職員として働いたエリアーショヴァーは、日本女子大学の教員や卒業生、音楽家の山田耕筰や女性作家の網野菊など、日本の文化人と交流する機会に恵まれた。また、彼女が日本滞在中にも執筆活動を展開し、日本の新聞や雑誌に母国の歴史や文化をめぐる記事を寄稿している点においても他の男性旅行家たちと異なっている。本研究はこのようなエリアーショヴァーの活躍に着目し、旅行日記、書簡、草稿等、複数の研究施設で未整理のまま保管されている膨大な数の資料を調査・分析し、【日本滞在中のエリアーショヴァーの活躍と日本の文化人・知識人との交流とそれによって形成された彼女の日本観】、【エリアーショヴァーが帰国後に講演や著作を通して積極的に発信した日本像とその背景にある彼女の思想】、【男性作家が多い中欧の日本旅行記・ジャポニズム文学において女性作家エリアーショヴァーが占める位置、彼女の著作の特色】を検討し、エリアーショヴァーの活躍とその功績を明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究は、日本国内外のジャポニズム研究や隣接領域の最新の研究成果をつねに確認しながら、プラハ市ナールステク博物館、リトメジツェ市国立文学記念館、シュラパニツェ博物館その他のチェコ共和国内の施設に保管されているエリアーショヴァーの書簡、はがき、未発表小説の草稿その他の資料の徹底的調査を行った。エリアーショヴァーは生前に数多くの著作を刊行したが、没後に埋没され、その文学や残された資料が整理されることがなかったため、エリアーショヴァーの遺稿その他の未公開の資料の整理・調査が本研究や今後のエリアーショヴァーの研究に必要な不可欠の条件であった。また、日本滞在中の活躍について、各種データベースや図書館にて調査を行い、旅行記の記述や写真の撮影地を特定するため、日本国内(奈良、京都、軽井沢)にて現地調査を行った。このような調査にあたり数多くの新資料を確認し、エリアーショヴァーの知られざる側面を照らし出すことができた。

### 4. 研究成果

本研究は、2020年度以降の新型コロナウイルス感染症拡大のため予定より一年延長され、2019年度より2023年度まで実施された。資料調査・分析は報告者が個人で行った。5年間の研究期間を通して公開した研究成果の概略は以下の通りである。

共著：2本、研究論文：6本、書評：3本、報告・短文：3本、学会発表：10本、講演：3本、報告者が企画・開催した展示：4本(うち日本開催は3本、チェコ開催は1本)、ギャラリー・トーク：2本、報告者が企画・主催した企画・開催したシンポジウム：6本(うちオンラインは5本、対面は1本)。以下、各年度の研究成果について詳しく述べる。

2019年度において、報告者は、B・M・エリアーショヴァーおよびその周辺の旅行家たちを考える際に必要不可欠となる現地の研究施設での資料調査を開始した。その結果、従来知られていなかった幼年・青年期のエリアーショヴァーの思想形成や社会活動、エリアーショヴァーがチェコおよび日本で築いた人脈などに関する新資料を確認できた。また、各種データベースの調査を行い、チェコ・日本の新聞雑誌に掲載されたエリアーショヴァー自身の記事を複数新しく確認できた。次年度以降も継続的に実施した資料調査はエリアーショヴァーの年譜および著作年表を大きく訂正し、エリアーショヴァーが見直される根拠となった。

上記の資料調査を踏まえながら、初年度において、国際学会 The 10th East Asian Conference

on Slavic Eurasian Studies (東京大学)にて、20世紀チェコにおける俳句の受容と、共産主義時代のチェコの詩人 K・トリンケヴィッツのハイクについて研究発表「Haiku in Czech Literature - The Past and the Present」を行い、近現代のチェコ文学における日本表象をテーマにした研究論文「東洋と西洋の架橋 異界 への扉を開くジャポニズム文学」(『文学+』)などを発表した。また、エリアーショヴァーを研究対象としているチェコの研究者と連携し、ブルノ市の州立図書館にて開催された展示「桜の国への旅 B・Mエリアーショヴァー」の関連イベントとして、作曲家山田耕筰との出会いを中心にエリアーショヴァーの交流に光を当てた講演「思いがけぬ出会い エリアーショヴァーと戦間期の日本」を行った。上記のように初年度から国内外にて研究成果を発信してきた。

2020年度において、新型コロナウイルス感染拡大のため外国での資料調査が困難となったため、確認済の資料の整理・分析を行い、また、各種データベースの調査を継続した。前年度にチェコ共和国ブルノ市の州立図書館に開催された展示図録『B.M.Eliasova: Cesty do zeme kvetu』(花の国への旅 B.M.エリアーショヴァー)に「Daleke cesty, necekana setkani - Cestovatelka B. M. Eliasova v Japonsku」(長い旅、思いがけない出会い 女性旅行家B・M・エリアーショヴァーと日本)を寄稿し、チェコの研究者によって注目されてこなかった日本側の資料を新しく紹介しながら、日本滞在中のエリアーショヴァーの動向や交流を解説した。本来対面で行う予定であった 日本・チェコ交流100周年 関連講演「波乱の幕開け：女性作家 B・M・エリアーショヴァー」をオンラインで実施し、50人ほどの参加者に対して1920～1921年のエリアーショヴァーの活躍について紹介した。エリアーショヴァーをはじめ、日本文学のチェコ語訳とチェコ文学の日本語翻訳の100年にもおよぶ歴史を幅広く紹介する展示「チェコと日本を結ぶ文学」(会場：チェコ・センター東京)と、チェコと日本の翻訳家が翻訳の諸問題について語るオンラインの関連イベントも開催した。なお、本展示は、2022年12月15日～2023年1月25日に在チェコ共和国日本国大使館広報文化センターにおいても開催された。

2021年度において、現地調査とイベントの対面実施が困難な状況が続くなかで、エリアーショヴァーの他に、日本文化に触発された近代チェコの旅行家・作家(J・ホロウハ、J・ハヴラサなど)の日本旅行やその文学活動に着目し、可能な範囲の資料調査・分析を行い、また、研究成果の公開を続けた。西洋のジャポニズム文学や日本語で書く外国人作家の活躍などについて学生や一般の方に対して幅広く知ってもらうため、本年度より実践女子大学国文学科の特別講演会「世界文学とジャポニズム」のシリーズを新しく設定し、第1回として小説『シブヤで目覚めて』で知られる若手作家アンナ・ツィマ氏を講師に迎えた。緊急事態宣言発令中に実施されることになったため、YouTubeでのライブ配信を行い、瞬間最高視聴者数は250名に達した。なお、2022年度の第2回は作家ロジャー・パルバース氏、2023年の第3回はグレッグ・ケズナジャット氏を招聘した。また、2022年2月15日より3月31日まで、駐日チェコ共和国大使館チェコ・センター東京にて展示「夢うつつの世界へ 近代チェコ文学に描かれる 日本」を開催し、19世紀末から20世紀前半にかけて訪日したチェコの旅行家たちによって執筆された日本旅行記や日本を舞台にした 日本もの の小説を幅広く紹介し、関連イベントとしてオンライン・シンポジウム「近代チェコ文学



展示「夢うつつの世界へ 近代チェコ文学に描かれる 日本」

の日本」を開催した。2022年度において、現地での資料調査をつづけると同時に、関連資料と文学作品の分析を踏まえた研究成果をまとめ、複数の研究論文と口頭発表により公開した。また、本研究の一環としてシンポジウムと展示会を複数開催し、中欧のジャポニズム文学や女性旅行家たちの活躍について、学界にとどまらず幅広く発信した。研究論文として、エリアーショヴァーの初来日の背景を調べた論考「忘れえぬ人々 女性旅行家B・M・エリアーショヴァーの初来日の背景」(『実践國文學』)と、チェコの男性旅行家J・ホロウハの1926年の日本旅行を日本の新聞に掲載された記事から考えた論考「茶漬の味もわかるチェコの日本通 一九二六年の日本新聞にみる旅行家J・ホロウハの肖像」(同)がある。11月26日にオンライン国際シンポジウム「西洋の女性たちが見た近代日本」と、2023年2月20日にチェコ共和国カレル大学で対面のシンポジウム「チェコの女性たちとオリエント」を開催し、女性旅行家のまなざしやその語りについて多角的に考察した。3月11日に、本研究のキーワードとなる移動と異文化体験を現在の政治問題に結びつけて新しい観点から再検討したシンポジウム「チェコとウクライナ2022/2023」をオンラインにて開催し、国内外から50人ほど参加者が集まった。なお、2023年2月6日～3月20日に駐日チェコ共和国大使館チェコ・センター東京で、ナールステク博物館との共催で写真展「チェコの旅行家たちの目に映った近代日本」を開催し、近

代日本とチェコの文学や文化交流について紹介した。

本研究の最終年度となる2023年度において、報告者は、2020年以降の新型コロナウイルス感染症拡大のためやや遅れが生じた調査を進め、研究成果の公開を続けた。大橋廣や網野菊など、エリアーショヴァーが盛んな交流を持っていた日本女子大学の成瀬記念館の資料を調査し、その成果を「女性旅行家B・M・エリアーショヴァーと日本女子大学(一) 一九一三年の大橋広との出会いと交流をめぐって」(『実践國文學』)としてまとめ、2024年3月に明石書店より刊行された『チェコを知るための60章』に、近現代チェコ文学における日本の表象について解説した「ジャポニズム」を寄稿した。また、本研究課題の今後の学術的な展開を視野に、他国・他地域における日本文化の受容と日本の表象の研究を行う研究者と連携し、戦後の東ヨーロッパにおけるヒロシマ・ナガサキと原爆の表象を検討するワーキング・グループを発足した。2023年6月に開催された日本比較文学会第85回全国大会にて、シンポジウム「原爆表象の受容と記憶の継承 冷戦期の東ヨーロッパを中心に」に参加し、「共産主義時代チェコスロヴァキアにおける「ヒロシマ」 原爆表象の受容、解釈と創出」というタイトルで、戦後チェコスロヴァキアにおけるヒロシマ・ナガサキをめぐる言説と政治プロパガンダとの関係について研究発表を行った。

上記の要約からも分かるように、新型コロナウイルス感染症拡大という予測不可能な事態により研究環境が急変したにも関わらず、報告者は研究期間を通して研究活動を概ね順調に推進し、この間に当初の計画より多くの研究成果を挙げる事ができた。本研究は、女性旅行家の視点をめぐる再検討・再評価を促し、女性旅行家B・M・エリアーショヴァーの活躍やその功績を日本国内外にて顕彰しつつ、エリアーショヴァーの人物像が見直される契機を作った。



展示「チェコの旅行家たちの目に映った近代日本」のギャラリー・トーク

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 105
2. 論文標題 日本の近代文学を彷徨う放浪者たち 定住を知らないインテルメッツォの生活	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 50-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 105
2. 論文標題 女性旅行家B・M・エリアーショヴァーと日本女子大学校（一） 一九一三年の大橋広との出会いと交流をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 実践國文學	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/0002000169	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 3627
2. 論文標題 「大衆性」という労働者作家の試金石	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 103
2. 論文標題 茶漬けの味もわかるチェコの日本通 一九二六年の日本新聞にみる旅行家J・ホロウハの肖像	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践國文學	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/0002000041	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 102
2. 論文標題 忘れぬ人々 女性旅行家B・M・エリアーショヴァーの初来日の背景	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践國文學	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002367	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 148
2. 論文標題 Jak sel cas s Karlem Capkem v Japonsku (カレル・チャベックとともに)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Zpravy Spolecnosti bratri Capku	6. 最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 102
2. 論文標題 ポフミル・フラバル著『石川達夫訳十一月の嵐』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 206-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ツィマ・アンナ、阿部賢一、須藤輝彦、ブルナ ルカーシュ	4. 巻 100
2. 論文標題 渋谷からシブヤへ 作家アンナ・ツィマと『シブヤで目覚めて』を語る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実践國文學	6. 最初と最後の頁 188-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002314	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ、阿部賢一、須藤輝彦	4. 巻 100
2. 論文標題 『シブヤで目覚めて』を読んで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実践國文學	6. 最初と最後の頁 208-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002315	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 3498
2. 論文標題 日本もの の系譜 ロティの『お菊さん』からツイマの『シブヤで目覚めて』まで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 2号
2. 論文標題 東洋と西洋の架橋 異界 への扉を開くジャポニズム文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学+	6. 最初と最後の頁 116-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブルナ・ルカーシュ	4. 巻 49
2. 論文標題 日本におけるチェコ文学の初期受容 プロレタリア文学運動との関係を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア・東欧研究	6. 最初と最後の頁 52-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5823/jarees.2020.52	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 共産主義時代 チェコスロヴァキアにおける「ヒロシマ」 原爆表象の受容、解釈と創出
3. 学会等名 日本比較文学会第85回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 エリアーショヴァーと日本音楽界
3. 学会等名 2022年度日本スラヴ学研究会研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 Ceske cestovatelky v japonskem medialnim prostoru（日本メディアにおけるチェコの女性旅行家たち）
3. 学会等名 Ceske zeny v Orientu, ceske zeny o Orientu（シンポジウム「チェコの女性旅行家たちと東洋」）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 関東大震災の記憶 B・M・エリアーショヴァーの三度目の来日
3. 学会等名 シンポジウム「西洋の女性たちが見た近代日本」
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 チェコの旅行家を惹きつけた目黒
3. 学会等名 シンポジウム「近代チェコ文学の 日本 」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 旅行家エリアーショヴァーと日本/チェコの女性運動 女学校講師時代の思想形成を中心に
3. 学会等名 第5回 ボヘミア・フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 文化と世代を超えて B・M・エリアーショヴァーと 小説家網野菊の交流をめぐって
3. 学会等名 Iaponica Brunensia 2021 ( チェコ共和国、ブルノ市 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 エリアーショヴァーが見た 昭和初期の日本 旅行日記その他の資料を中心に
3. 学会等名 2020年度日本スラヴ学研究会研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 生まれ変わる外国文学 戦間期日本におけるチェコ文学の受容・評価
3. 学会等名 ロシア・東欧学会 2020 年度研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 1920年～1921年のチェコスロヴァキア公使館 波瀾の幕開け チェコ旅行家・女性作家B・M・エリアーショヴァーの功績
3. 学会等名 チェコセンター東京（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 Necekana setkani B.M.Eliasove - Ceska cestovatelka v mezivalecnem Japonsku（エリアーショヴァーの思いがけない出会い）
3. 学会等名 展示「Barbora Marketa Eliasova - Cesty do zeme kvetu」の関連講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 Haiku in Czech Literature - The Past and the Present
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブルナ・ルカーシュ
2. 発表標題 K・チャベックの『ロボット』を読み直す
3. 学会等名 2019年度 公開講座 「再読・再発見：スラブ・ユーラシア地域の古典文学と現代」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 薩摩秀登、阿部賢一編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 チェコを知るための60章	

1. 著者名 Martina Krajickova, Romana Machackova, Lukas Bruna	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Moravska zemska knihovna, Brno	5. 総ページ数 103
3. 書名 Barbora Marketa Eliasova: Cesty do zeme kvetu	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>B・M・エリアーショヴァーその他のチェコの旅行家たちのことを幅広く知ってもらうため、本研究の一環として2020年に研究ノート（<a href="https://note.com/lukasbruna">https://note.com/lukasbruna</a>）を開設した。2021年以降にフェースブック（<a href="https://www.facebook.com/groups/655188582149443">https://www.facebook.com/groups/655188582149443</a>）に移行し、「B・M・エリアーショヴァーの友の会」を発足し、エリアーショヴァー関連の情報を継続的に発信している。</p>
---

## 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 国際シンポジウム「西洋の女性たちが見た近代日本」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際シンポジウム「チェコスロヴァキアの女性解放運動」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 チェコと日本を結ぶ文学 日本文学のチェコ語訳をめぐって(翻訳家A・クジヴァーンコヴァーによるZOOM講演会)	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 チェコと日本を結ぶ文学 チェコ文学の日本語訳をめぐって(翻訳家阿部賢一・平野清美によるZOOM講演会)	開催年 2020年～2020年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------